

## シヨトーカ選定書読修会活動について

加澤 恒雄\*・久野 吉光\*\*

(平成22年9月9日受付)

### The Chautauqua Literary and Scientific Circle

Tsuneo KAZAWA and Yoshimitsu HISANO

(Received Sep. 9, 2010)

#### Abstract

This article is a summary of the Chautauqua Literary and Scientific Circle, the CLSC, which is one of the programs of the Chautauqua Institution. The Chautauqua Institution is often called an American Utopia and well-known to American people. It owes its origin to the Chautauqua Sunday-School Teachers' Assembly established at Fair Point, on the Chautauqua Lake, New York, in 1874. The CLSC was founded for the meeting the demand of participants in the Assembly by John H. Vincent in 1878. Its aim is to promote habits of reading and studying and give college level education to persons unable to attend higher institutions of learning through reading select books. It became the prototype for book clubs, study groups, programs of planned reading book selections. This method of home reading courses of the CLSC spread not only in the United States but also in such countries as England, India, Japan, and South Africa. But the CLSC survived the grave crisis during 1960s and 1970s. In 1980s the CLSC experienced an increase in both membership and participation. The members of the CLSC continue to stimulate a love of literature and learning for many generations of Chautauquans and for the summer session visitors to the institution. Vincent's concepts remain at the core of the present-day CLSC program.

**Key Words:** the CLSC, reading clubs and study groups, the CLSC program, life-long learning, general and liberal education

#### 緒言

“Chautauqua”を日本語で表記する場合、複数考えられるが、本稿では「シヨトーカ」と表記する。アメリカ合衆国東部ニューヨーク州の南西部に、Chautauquaを冠語とするCounty(郡)、Lake(湖)そしてInstitution(学園)がある。本稿で言及するのは三番目の学園、すなわちシヨトーカ総合学園(Chautauqua Institution、以下シヨトーカと云う)である。135年以上の歴史を持つシヨトーカ総

合学園は生涯学習の源泉、かつ、アメリカンユートピアとも云われ、識者間では周知されている。しかし、日本では、アメリカ関係研究者や滞在経験識者の間で、初期シヨトーカの発展拡大活動はシヨトーカ運動(The Chautauqua Movement)と云われたので、歴史的事実としては認識されても、シヨトーカ活動についての歴史・現状認識はきわめて低い。

ここで、筆者らの執筆の動機ないし意図について一言述べておくと、本稿は、久野の長年にわたるこれまでの「シヨ

\* 広島工業大学工学部機械システム工学科(教職科目担当)

\*\* 日本シヨトーカ研究所

トーカ活動」と、加澤の「生涯学習（生涯教育）に関する研究」の視点から見たショトーカ活動に対する強い関心ならびに高い評価に基づいて、執筆され発表されたものである。本稿では、最新の情報、研究・現地体験等を踏まえ、とくに、文字活動を基本とする「ショトーカ選定書読修会」(Chautauqua Literary and Scientific Circle, The C L S C) 活動に焦点を当てて述べてみたい。なお、この英語の名称を直訳すると「ショトーカ文理会」となるが、本稿では、日本語の名称を「ショトーカ選定書読修会」とする。

## 1. ショトーカ総合学園

ショトーカ選定書読修会について言及する前に、その母体のショトーカ学園について概述しておきたい。19世紀後半、アメリカでは公立学校教育はまだ発展途上にあり、日曜学校が青少年期の教育に大きな役割を果たしていた。しかし、この日曜学校は教会付属で、各宗派により経営・内容・教員の資質も多様であった。それで、より広く高い共通性と独自性を持つ日曜学校教員の資質の向上とその養成が、日曜学校関係者間の共有課題であった。聖職者活動関係で知友のルイス・ミラー (Lewis Miller 1829 - 1899, オハイオ州) とジョン・ヴァインセント (John Heyl Vincent, 1832-1920, アラバマ州) は、これに対応するために、日曜学校教員修養会の創設で一致した。ミラーはメソジストのオハイオ州アクロン (Acron, Ohio) 地域の日曜学校監督者で、実業家であり、教育家でもあった。

ヴァインセントは若くして説教師の資格を取得したメソジスト日曜学校連合 (Methodist Sunday-School Union) の責任者であった。まず、設立する日曜学校教員修養会の日曜学校連合による承認を得ることから始まった。開設場所は、ヴァインセントはミラーがオハイオ州アクロンで、日曜学校に直接関係しているの、アクロンを希望した。一方、ミラーは、ショトーカ湖畔のフェアポイント (FairPoint) を希望した。その理由は、当時 (1871年) すでに、フェア・ポイントで、ニューヨーク州の認可を受けたショトーカ湖キャンプ会協会 (The Chautauqua Lake Camp-Meeting Association) が活動中で、ミラーはこの協会の理事であり、また、ある程度の土地を所有していたので、この地が、林間あるいは緑陰での学習活動には最適で、かつ参会者にも地理的に便利なことを理解していた。もちろん開催にあたっては、多くの問題・課題、とりわけ施設設備等の問題で、その解決法は、この既存のショトーカ湖キャンプ会協会の支援協力を受けることであった。1873年、協会の全面的支援協力が得られ、協会所有の施設設備等の使用が可能になった。修養会も所有地 50 エーカーを確保した。

このようにして、ミラーとヴァインセントの両氏は、1874年8月、期間 15 日、このフェア・ポイントで第 1 回のショ

トーカ日曜学校教員修養会 (Chautauqua Sunday-School Teachers' Assembly) を開催した。第 1 回の修養会は大成功で終わった。そこで、支援協力者の協会は、第 2 回のショトーカ日曜学校教員修養会を同地で開催するよう修養会に申し入れ、第 2 回修養会もこの地で開催することになった。その後、修養会と協会は、合併することになり、従来の協会所有の財産等は、ショトーカ日曜学校教員修養会に引き継がれた。名称もショトーカ湖日曜学校修養会 (Chautauqua Lake Sunday-School Assembly) となった。このショトーカ湖日曜学校修養会はプログラム等を多様化し、多様な人々の要望に応えた。その結果、当初はその名の通り日曜学校教員の宗派を超えた共通資質の向上を目的としてスタートしたが、一般の人々や一般の学校教員を対象とするプログラムを開設し、修養会活動の発展は著しいものであった。敷地も、参集者の増加に対応して、発足時の 50 エーカーから 1876 年に 88 エーカー、1880 年に 139 エーカー、1916 年に 306 エーカー、1985 年に 740 エーカーに拡大し、そして 2010 年現在、750 エーカーである。会期も参加者の増加と多様なプログラムの開設で次第に増加し、当初の 1874 年の 15 日が、1876 年は 24 日、1886 年は 58 日、以後 60 日を前後の会期が持続され、近年は 9 週間が定着している。

しかし、夏季修養会の学習は時空に限定され、閉会と同時に、学習活動や学習者相互の交流活動も中断しなければならなかった。そこで、参加者から、学習活動の持続可能な方法の創設要望が出された。その要望に応じて、ヴァインセントは 1878 年、時空無限定読書習慣形成促進と、選定書読修活動による継続学習活動方法を発表した。名称は、ショトーカ選定書読修会 (英語名は既出) である。これについては、次章で述べる。

また、さらなる多様な分野の活動が行われ、ショトーカ修養会は大なる発展を遂げた。その諸活動は、次の 5 分野にわたっている。1. ショトーカ修養会 (The Chautauqua Assembly) 部活動としてショトーカ夏季学期 (The Summer Meetings at Chautauqua), 日曜学校教職員部 (The Sunday-school Normal Department), 現職教員研修部 (The Chautauqua Teachers' Retreat), 外国語部 (The School of Language), 2. ショトーカ選定書読修会 (CLSC), 3. ショトーカ教養学部 (The Chautauqua College of Liberal Arts), 4. ショトーカ神学校 (The Chautauqua School of Theology) それから、5. ショトーカ出版部 (The Chautauqua Press) である。そして、これらの統括体がショトーカ大学 (Chautauqua University) である。このショトーカ大学は州認定の学位授与権を持っていた。ショトーカ大学は、通信教育や大学開放を積極的に行った。

しかし、他大学もこの活動を次第に拡大実施するようになり、その先導的役割を果たしたので、1906年大学の名称と学位授与権を州に返上し、今日のショトカー総合学園(The Chautauqua Institution)となった。どの組織・団体も長期間存続する場合、その間には必ず多様で困難な社会的・経済的な昇降波による存続危機との直面、克服の経験をするものである。創立以来、劇的な発展を見たショトカーも例外ではなかった。1930年代のアメリカ全土を襲った大恐慌の影響を大きく受けた。しかし、関係者と卒業生を含め多くの人々の支援・協力と努力で再起した。

現在のショトカー学園は、通年多様な活動をしているが、一年のうち最高に活動するのは、シーズンと云われる夏季学期(6月下旬から8月下旬までの間の9週間)で、この夏季学期のショトカーは、教育・芸術・文化・スポーツそれに宗教を統合化した多様なプログラムの学習の時空を多世代に提供している。この期間には、毎日7,8千人の学習者がグランドと呼ばれる園敷地にある多様な宿泊施設に滞在し、上記の諸分野の学習、スポーツ、それから宗教的活動に専念し、心身のリフレッシュの時空を過ごしている。この夏季学期活動時のショトカー総合文化学園は、上記のようにアメリカンユートピアとも云われ、アメリカ人の心身再生成長の源泉となっている。

## 2. ショトカー選定書読修会 (The CLSC)

ショトカー選定書読修会の成立過程は、前項で述べた通りである。1886年、J.H. ヴィンセントは、修養会創設12年を機に、それまでのショトカー活動をまとめ、共同設立者のL.ミラー氏の序文で自著「ショトカー運動(The Chautauqua Movement)」を出版した。次に、同書における同氏のショトカー選定書読修会についての言及文を引用しながら、ショトカー選定書読修会について概説したい。

1878年8月、ショトカー日曜学校修養会参加者の継続学習の機会設定の強い要望に応じて実現したショトカー選定書読修会は、日常の生活において時空を問わず、自然、芸術、科学、文学、宗教書等を統合化した大学程度の教養教育の普及促進を目的とする選定書読修活動で、その会の設立が公表されると、修養会参加学習者の喜びと学習意欲は大変なものであった。

This organization's aims to promote habits of reading and study in nature, art, science, and secular and sacred literature in connection with the routine of daily life.....(p.75) Already over seven hundred persons have sent in their names as candidates for membership in CLSC, which is not yet three days old; and already we hear individuals declaring with emphasis, "We shall a local CLSC organized in our own town very soon

Assembly is over. (p.80)

そして、日曜学校教員修養会および他の修養会参加者に従来の限定期間集合修養会と、新たに発足したショトカー選定書読修会との違いについては、次のように述べている。

The C.L.S.C. is a school at home, a school after school, college for one's own house. It is for busy people who left school years ago, and who desire to pursue systematic course of instruction. (p.75) The Assembly contains people who listen. The Circle is made of people who read. The Assembly covers a few weeks. The "Circle" casts its canopy over the year and the years. (p.74)

選定書読修会の学習方法は、従来の修養会のように学習期間が限定されず、各個人の自律的読修活動、地域での集合相互学習会、それにショトカー本会で行われる夏季学期の拡大集合学習、それぞれの担当の教授による通信指導、レポート提出、試験等による総合学習進行であるとしている。この方法は、今日の通信(遠隔)教育における学習指導原点とも云える。

It encourages individual study in lines and by textbooks which shall be indicated; by local circles, by summer course of lectures, students sessions, and by written reports and examinations. (p.75) By individual study the influence of the Circle may be promoted. A system of correspondence with professors of departments will be arranged. Monthly reports will be made by those who engaged in the study. (p.87)

また、知識は人間の特有物で、人は学ぶことにより多様な知識を修得することができる。そして知識はその人間力を拡大促進し、より大きな多様な社会の構成員として送り出し、その社会で自己の能力を発揮し、社会に貢献できる原動力となる。その社会では絶えず学習をおこなう必要がある。その学習活動は年齢時限活動ではなく、限りない持続活動である。そのための機会は常に用意されなければならない。そこで、加齢者の学習についてその有効性を述べている。これは、今日の生涯学習の基本理念に通じる。

Knowledge promotes Power. It gives a man wide vision, enlarging the world into which he was born, and multiplying world to which from time to time he is introduced. It is microscope and telescope to a man who possesses it. (p.81, p.82) Between the age of twenty and eighty lie person's best intellectual and educational opportunity. (p.13, p.14) Several members are eighty of ages; very few are under eighteen. (p.75) Cato learned Greek at eighty; (p.12) Chaucer at Woodstock with nightingale, at sixty wrote the "Canterbury Tales", Goeth at Weimar, toiling to the last, completed "Faust" when

eighty years were past. (p.12)

シヨトーカ選定書読修会の拡大発展は、国内はもとより海外にも普及した。その発展した国・地域名の中に日本の名が見られる。これは、第1回卒業生のドレナン夫人(Mrs. A.M. Drennan)が宣教師として大阪に赴任し、同夫人の選定書を利用してのボランティア活動として報告が情報原によるものである。これに関しては後述するが、詳しくは筆者の「日本文学会につて」を参照されたい。

The Assembly is at Chautauqua. The Circle carries Chautauqua to world's end-- to the east, to the west, to Florida, to Scotland, to the Sandwich Island, to India and Japan, to Cap Colony--- everywhere. (p.74)

シヨトーカ選定書読修会の創設が発表された時、読修者の読修と学習への期待と情熱が大変大きかったことは既述した。学習意識と意欲それに実践力が強かったと思われる第1回生の登録学習者は多数であったが、学習実践持続の日々の現実となると、4年間の読修学習の継続は、どの学習集団にも共通するのは容易ではない。以下の引用文による第1回生の読修完了・卒業率を読修期間4年と限定すると、その率は20.5%となる。この率の背景は多様であるが、その一つは選定書必読数である。開始当時は1年12冊であったが、非常に多くの数の選定書が必要になり、その供給の対応が困難で、1880年までには4冊に軽減され、副教材が利用され、その後、選定書だけになった。このように第一回の学習者は、選定書の必読数が途中で変更されたが、開始時は相当な努力が求められたと思われる。また、当時の生活社会学習環境等の総合的考察なしでは、単に数字だけを論じることはできないと考える。第1回生の4年後を含めて全体的な完了率の資料等が十分でない現状では、言及は控えたい。しかし、第1回生の卒業生は、その数と卒業後の活動・活躍等は、シヨトーカ活動の普及発展への貢献は大きいと云える。

Over eight thousand four hundred names enrolled the first year, in the class of 1882. Many who undertook the course of study became discouraged, and dropped out entirely. Many continued to read portions of the course, keeping up their relation to the Circle, but attempting to graduate at the end of four years in 1882, 1,718 members of the first class received diploma. "Recognition day (Commencement Day as it was)". (p.112)

このシヨトーカ選定書読修活動の発展、拡大の背景には、当時の南北戦争(1861-1865)後、人々は知的、精神的向上を求めている、シヨトーカ選定書読修会は、この求めにまさに合致したと云える。各地域においても、選定書読修活動を基本とした文化芸術宗教等諸分野の総合活動が展開した。シヨトーカ学園は、シヨトーカ選定書読修会存在

の源泉であり、その源泉が受けた難事波を、時差はあるにしても、1960年代に受けざるを得なかった。これに対して、関係者と卒業生一同支援協力努力してその波を乗り越えた。しかし、これを機に従来の読修指導方法は、当初の目的を持続しつつ柔軟化方策が採られた。読修年数4年は、加年継続が可能となり、試験もレポートに変わった。また、選定書は読修冊数は維持しても、伝統的な教科書の選定書から一般社会流通書に変わった。しかし、その基本は、伝統的分野を維持しつつ、大学と一般社会との共通知識源となり得る大学関係者の研究関連作品、諸賞受賞及び相当書等が選定書に選ばれる傾向がある。最近10年間の選定書は、毎年9冊(2010年は10冊)が選定され、夏季学期の9週間と連結し、各週一人の選定書の著者は、当該選定書について講演し、会員および参加者の質疑応答やその後の交流会等で著読者の親交を深める機会を持つ。これは、現在のシヨトーカ選定書読修会の特徴となっている。

### 3. 選定書

シヨトーカ選定書読修会の目的は既述の通りであるが、読修活動において重要なのは、選定書の程度と内容である。発足当時から、その選定書の内容は一般大学の教科書的で、選定書によりカリキュラムが構成されている。その構成は、古典としてギリシャ・ローマの歴史・文芸そしてヨーロッパをはじめアメリカ等の歴史・文芸・自然科学的分野を包含している。そこで、次にこの選定書カリキュラムの構成と、その目的理解の参考として、第一回生が卒業読修期間の4年間に於いて毎年付加される選定書を通して、初期の読修活動による望まれる人間像の目標と柔軟化による2010年度を含めての近接5年間の選定書を挙げ、参考に供したい。

1878-1879年

Green, J.R. ....A Short History of the English People  
Brooke, Stopfor.....English Literature  
Hurst, John F.....Outline of Bible History  
Larned, Augusta.....Old Tales Retold from Grecian Mythology  
Mahaffy, J.R.....Old Greek Life  
Peirce, Bradford K.....The Word of God Opened  
Steele, J. Dorman.....Fourteen Weeks in Humna Physiology  
Vail, A.D. ....Greek Literature  
Vincent, John H. ....English History  
Vincent, John H.....Greek History  
Warren, Henry W. ....Studies of the Stars  
Warren, Henry White.....Recreations in Astronomy  
1879-1880年

- Blaikie, William.....How to Get Strong and How to Stay So  
 Hughes, James.....Candian History  
 Hurlbut, J.L.....American History  
 Lawrence, Eugene.....A Primer of Latin Literature  
 Merivale, Charles.....A Genral History of Rome from  
 Foundation of the City to the Fall of  
 Augustulus  
 Ridpath, John Clark..... History of the United States  
 Vincent, John H.....Christian Evidences: Chautauqua  
 Library of English History and Literature  
 Vincent, John H.....Roman History  
 Walker, James B.....Philosophy of the Plan of  
 Salvation  
 Wythe, J.H.....Biblical Biology  
 Wythe, J.H.....The Science of Life  
 1880-1881 年  
 Abbot, Jacob.....History of Cyrus the Great and  
 Alexander the Great  
 Aruthpr. William.....The Tangu of Fire  
 Fish.....Primitive Piety Revived: The Acts of the  
 Apostles: the Chautauquan  
 Hurst, John F.....Outline of Church History  
 Kingsley, Charles.....Hypatice  
 Thalheimer, M.E.....An Outline of Geneal History  
 Townsend, L.T.....The Art of Speech, Vol.1 Reading  
 from Ancient Classics; Chautauqua Library of  
 English History and Literature  
 1881-1882 年  
 Abbott, Lyman.....Hints for Home Reading  
 Alden, Mrs. Isabella. Macdonald.....The Hall and  
 Grove  
 deForest, Julia B.....A Brief Outline of History of  
 Art  
 de Forest, Julia B.....A Short History of Art: The  
 Chautauquan  
 Mackenzie, Robert.....The 19th Century: A History  
 Quackenbos, John D.....Illustrated History of Ancient  
 Literature: Chautauqua Library of English  
 History and Literature  
 Terry, M.S.....Man's Antiquity and Language  
 Townsend, L.T.....The Art of Speech vol. II  
 Viencent, John H.....Outline of Genral History  
 1909-1910 年 3種類  
 Wilkinson. G. Lower.....The Greek View of Life: The  
 Homeric Stories Iliad and Odyssey  
 Flowler,n William Ware.....Social Life at Rome in the  
 Age of Cicero  
 Martin, Martha Evans.....The Friendly Stars  
 2005-2006 年  
 Baldwin, Neil.....The America Revelation: Ten Ideals  
 That Shaped Our Country From the Puritans to ther  
 Cold War  
 Burrel, Brian.....Postcards From the Brain Museum:  
 The Improbable Search for Meaning in the Matter of  
 Famous Minds  
 Carroll, James.....Constantine's Sword: The Church and  
 the Jews :A History  
 Cohen, Rrache.....A Chance Meeting : Interwined Lives  
 of American Writers and Artists 1854-1967  
 Dennis, Carl .....New and Seleted Poems 1974-2004  
 Doerr, Anthony .....About Grace  
 Goldberger, Paul.....Up From Zero : Architecture,  
 Politics and the Rebuilding of New York  
 Reid, T. R. ....The United States of Europe: The  
 Superpower and the End of American Supremacy  
 Wallis, Jim.....God's Politics: Why the Right Gets It  
 Wrong the Left Doesn't Get It  
 2006-2007 年  
 Arthur, Anthony.....Radical Innocent Upton  
 Sinclare  
 Bezmozgis, David.....Natash: And Other Stories  
 Books, Geraldine.....March  
 Grushin, Olga.....The Dream Life of Sukhanov  
 Knight, Louise L.....Citizen: Jane Addams and Struggle  
 for Democracy  
 Linden, Eugene.....The Winds of Change: Climate,  
 Weather and Destruction of Civilization  
 Messery, Julie.....Outside the Not So Big House:  
 Creating the Landscape of Home  
 Murray, Joan.....Poems to Live By in Troubling  
 Times  
 Rosenblatt, Roger.....Lapham Rising: A Novel  
 2007-2008 年  
 Antrim, Donald.....The Afterlife: A Memoir  
 Applegate, Debby....The Most Famou s Man in  
 America: The Biography of Henry Ward Beecher  
 Armstrong, Karen.....A Short Historyroy of Myth  
 Barton, Emily.....Brookland: A Novel  
 Braham, Jeanne...The Light Within The Light: Portraits  
 of Donald Hall, Richard Wilbur, Maxine  
 Kumin, and Stanley Kunitz  
 Klinkenborg, Verlyn.....The Rural Life

Kuusisto, Stephen.....Eavesdropping: A Memoir of  
Blindness and Listening

Lombardo, Stanley.....Translation of the Aeneid

Lynch, Thomas.....Booking Passage: We Irish and  
Americans

2008-2009 年

Ackerman, Dianed.....The Zookeeper's Wife: A War  
Story

Harwood, John.....Pennsylvania Avenue: Profiles in  
Backroom Power in America

Morgan, Robert.....Boone: A Biography

O'Neill, Molly.....Ameican Food Writning: An Anthology  
with Classic Recipes

Relin, David Oliver.....Three Cups of Tea

Rosenblatt, Roger.....Beet

Sandel, Michael.....The Case Against Perfection: Ethics  
in the Age of Genetic Engineering

Van den Heuvel, Cor.....Baseball Haiku

2009-2010 年

Bowden, Mark.....Black Haw Down: A Story of  
Modern War

Choi, Susan.....A Person of Interest

Gordon-Reed, Annette.....The Hemingses of Monticello: An  
America Family

Lehrer, Jonah.....Proust Was A Neurosscintist

Machado, Eduardo.....Tastes Like Cuba: An Exile's  
Hunger for Home

Pinsky, Robert .....An Invitation to Poetry

Umrigar, Thrity.....If Today Be Sweet

Vreeland, Susan.....Lunch of the Boating Party

Weisman, Alan.....The World Without Us

2010-2011 年

Belfer, Lauren.....A Fierce Radiance

Bosenblatt, Roger.....Making Toast: A Family Story

Hill, Lawrence.....Someone Knows My Name

Marton, Kati.....Enemies of the People: My Family's  
Journey to America

Heyen, William..... A Poetics Hiroshima

Friend, Davis.....Watching the World Change: The  
Stories Behind the Images of 9/11

Ha Jin.....A Good Fall

Grann, David.....The Lost City of Z: A Story Deadly  
Obsession in Amazon

Rushdie, Salman.....The Enchantress of Florence

Gormley, Ken.....The Death of American Virtue:  
Clinton & Srarrrt

Chautauqua Literay & Scientific Circle Book List 1878-  
2010

#### 4. ショトーカとの出会い

ショトーカとの前進的出会いは、昭和30(1955)年に  
阪神間の公立高校に赴任し、超高校級と云われた同校図書  
館で、明治期通信教育及び教育関係考資料閲覧時の「新聞  
集成明治編年史」であった。同書の明治10年代後半から  
の記事に目を通した。それは、近代通信教育が近代郵便制  
度を利用した双方向の教育活動とすれば、わが国の郵便制  
度は、欧米を範として、明治4(1871)年に開設、その利  
用は、10年代後半からと推測したからである。世界で最  
初の近代郵便制度の創始国は、1840(天保11)年イギリ  
スである。一定の大きさや重さの郵便物は、同じ料金で全  
国どこにでも発送できた。通信のユニバーサル化の元祖で  
ある。その最低料金が1ペニーであることから1ペニー郵  
便(The Penny Post)とも云われた。また、同年に、ア  
イザック・ピットマン(Isaac Pitman)がこの制度を利用  
して速記の通信教育を始めた。これが世界で最も早い通信  
教育と云われている。

同編年史の明治18年の頁に目を通していくと、一瞬目  
を疑う小さな記事に出会った。「講義録発行、この度、日  
本人数人(氏名省略)とエ・エム・ドリンナンの諸氏が発  
起人となり、米国セタウワ文学会の支会を設置し、当地  
京町堀4丁目21番地に仮事務所を置き、・・・日夜仕事  
に従事し、学業なす余暇に乏しきものの為に1カ年平均一  
日40分間を以て修業の時間とし、・・・4年間を以て卒  
業するを得るの規則なり」との朝日新聞紙上の広告文  
である。この支会は「日本文学会」である。ショトーカと  
は異なる表記だがショトーカと直感した。数年前に、明治  
期通信教育研究に関心を持ち、世界教育史の中での状況認  
識のため、関係書に目を通していた際、「1878年アメリカ・  
ショトーカ通信教育開始・・・」の文言に出会い、関係  
者に尋ねたが、日本には知る人はいなく、参考資料もない  
のではとのことで、アメリカでの通信教育実施の歴史的事  
実として、脳裏に留め置いた記憶がこの小さな記事に直ち  
に反応活性化した。そこで、実物の新聞でさらなる広告文  
を調査することにした。

大阪府立中之島図書館に明治期の新聞が保管されてい  
ることを知り、以後、主として土曜日午後、日曜日等に図書  
館参りが始まった。幸いに、明治10(1877)年代からの  
朝日新聞が保管され、同紙には「日本文学会」の設立と、  
会員募集の広告文が度々掲載され、各広告文はある程度、  
会の状況が推測可能な説明文となっている。これらの諸文  
言から「日本文学会」は、大阪市西区京町堀に設立され、シヨ

トカー選定書を翻訳編集し、教科書として通信教育的活動を始めたことがわかった。問題は設立者の1人、アメリカ人のドリナン氏の綴り字である。他の紙面にはツレナシ氏ともあり、このような複数の日本語のカタカナ表記から、正確な氏名の綴り字を知ることは困難であった。氏名の正確な綴り字が分かると、当時、大阪市の川口に、居留地があり、その関係資料から外国人に関する情報を知ることが可能であった。また、日本文学会の出版物が出版された事実は、当時の官報に公示されている。明治期では、すべての印刷出版物は、新聞紙条例（明治8年改正、1875年）と出版条例（明治8年改正、1875年）に基づいて、事前に届け許可を受ける必要があった。この出版物の公示の官報は、明治・大正年間には市内の公立図書館に保管はされていた。しかし、誰も閲覧した形跡がなく、埃と塵のカバー状態で、清掃を兼ねての閲覧であった。この条例のため、ドレナン夫人は出版に時間がかかり苦労した、と当時のショトカー本会のヴィンセント氏に報告している。

また、日本文学会もいわゆる「文学関係の任意団体」と考えられ、その存在と役割は、郷土史研究者の注目外にあったと思われる。その後、正確な氏名の綴り字が判明し、情報が分かるようになった。ドレナン夫人（Mrs Drennan）はアメリカ人の宣教師であり、新設される女学校の責任者になるためにアメリカのミッションから明治16（1883）年に大阪に派遣されたのであった。そして、本務の傍らボランティア的活動で日本人の教育・教会関係者と明治18（1885）年に、既述のように「日本文学会」を設立し、ショトカー選定書を翻訳編集して教材とした通信教育的活動を行った。当時は大阪やその他の都市に多数のアメリカ人の宣教師が来日していたが、ドレナン夫人だけがショトカー選定書を利用しての活動をした。後日、ショトカーを訪問して分かったことは、ドレナン夫人がショトカー選定書読修会の第1回の卒業生で、第1回の卒業生は大変活動的で各所において、ショトカー選定書読修会活動の普及拡大に貢献したとのことである。

他方、筆者のショトカーへの案内役の源泉である明治期通信教育研究は、「文部省科学研究費奨励研究費」等を得て継続した。今日の「通信教育」と言う言葉は、戦後の教育改革で正規の教育に位置づけられてからのことである。最近では遠隔教育、E-learning等の用語が使用されているが、通信教育が基本である。明治から戦後の教育改革まで使用された言葉は、通信教授、通信講習、通信講義録、講義録、自宅学習、自宅獨修等々多様である。一般的には、通信講義録あるいは単に講義録、通信教授等が使用された。本稿においても戦後教育改革までの場合は、本来なら通信教授等を使用すべきところ、通信教育を統一使用していることをお断りしておく。

明治期においては、官立諸学校授業はわゆるお雇い外国人の外国語によるのに対して、私立諸学校では、日本人による日本語で行われ、学問の日本化の先導役をした。そして、とくに私立法律関係専門学校は、毎日の授業の講義が終了すると直ちに編集・印刷し、講義録として校外生（通信教育生）に送付した。当時としては、リアルタイムに近い授業講義の出前である。今日、東京、大阪にある大学で、明治期の前身校が法律政治経済等を中心とした場合は、校外生制度を開設した学校が多い。通信教育は、この他、医学、歯学、工学、農学、教員養成、理科、国語、中学校・女学校・実業学校、外国語、速記その他趣味的分野の広範囲にわたり、学校や諸団体によって行われた。その学習者数は、いわゆる通学生・生徒数をはるかにしのいだと考えられ、明治期通信教育は明治期およびその後の日本の近代化と、国民の資質の向上に大いに貢献したと考えられる。

筆者（久野）は、昭和44（1969）年、パリのユネスコ本部で開催された「国際通信教育学会（The International Council for Correspondence Education）」の第八回世界大会に参加した。

この会議で通信教育が世界的に公認された。その後、この会議には数回参加し、各国の関係者と交流を深める機会を得た。このことがショトカーの現存認識と訪問実現への滑走路となった。昭和63（1988）年、同学会紀要に、アメリカ・ペンシルベニア大の大学院生のショトカーの初期活動についての論文が掲載された。この著者に現状のショトカーについて尋ねると、現在、それは活発に多分野の教育活動をしているとのことであった。翌平成元年（1989年）、筆者は同学会紀要に、「日本の明治期近代化における通信教育の役割と貢献につて」の論文を発表し、ドレナン夫人の日本でのショトカー選定書等の関係活動にも言及した。平成4（1992）年、アメリカの成人教育団体広報紙に、ニューヨーク州のジェームズタウン コミュニティ カレッジの学長のティモスイ G. デイヴィス氏（Timothy G. Davies, President of Jamestown Community College）が「ショトカー運動（the Chautauqua Movement）について」の講演をするとの公示文があった。早速、同氏と連絡を取った。同氏も、ショトカーは現存し活発に活動中とのこと。さらに同氏は、筆者の手紙をショトカー学園長 Daniel Bratton 氏に転送してくれた。これが筆者のショトカーへの架橋のスタートとなった。

まもなく、学園長と学園史記録部長の Mrs. Alfreda L. Irwin 両氏から手紙が届いた。以後ショトカーとの直接連絡が可能となり、最初の文字による出会いから40年、5度目で文字の直接の往復橋ができた。ドレナン夫人の「日本文学会」のショトカー選定書活動についての研究を報告した。ショトカー学園の関係資料には、ドレナン夫人の日

本での活動が記録されているが、今までその活動について報告する日本人の研究者はいなく、是非ともショトカー学園に報告に来るようにとの招きがあった。しかし、先方の希望日程の都合上、訪問を延期していた。平成6(1994)年、日程調整ができ、訪問することになった。8月下旬と云うこともあって、ショトカー選定書読修会の卒業式等の関係諸行事はすでに終わっていたが、開催中の全米ショトカーネットワーク総会で、明治期の通信教育とドレナン夫人のショトカー選定書関係の活動についての発表と質疑応答の機会を持った。以後多くの人々との交流の機会を持っている。帰国後、日本ショトカー研究会を設立し、日本でのショトカー選定書読修実現の準備を進めた。しかし、平成7(1995)年1月、阪神淡路大震災で、自宅は全壊した。そこで、日本における選定書読修計画はしばらく延期せざるを得なかった。平成10(1998)年、ショトカー選定書読修会を発足させ、以降、個人的には複数読修が可能だが、会としてその年の選定書から一冊を会員皆で選定し、一年間の読修計画により読修活動をしている。会員は、毎月の設定範囲を自律読修し、月に一度の読修支援会に出席し、相互激励・感動・共同感の深化を共有する。これまで11冊の読修を完了した。

この8月から平成22(2010)年度の選定書を読修する。読修支援会は、大阪市中央区大手前にあるドンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)で開催している。筆者は、平成19(2007)年8月、ショトカー選定書読修会卒業式に参加した。2007年度卒業生(CLSC Class of 2007)は筆者を入れて81名、最初の日本人卒業生とのこと。級友は教員、判事、団体職員、会社員、主婦、学生等々で、年齢も世代も多様である。同窓会は、卒業式に開催、各クラスはクラス旗を先頭に、新卒業生歓迎のための伝統的園内行進をする。同窓生の友人たちとの出会いは年ごとに拡大する。

## 5. 結語

以上において、ショトカー活動としてのショトカー選定書読修会に焦点を当てて述べた。日本におけるショトカーについては、緒言で述べたように、今日、平成22(2010)年も含めて、ショトカー活動についての認識はきわめて少ない。そこで、それは今日のグローバル情報化社会にも関わらず、情報流の停止に起因すると考え、日本の英和辞典で、所収項目の場合、ショトカー活動に関しての従来の説明は、「歴史的存在」を示唆する内容であり、その改訂を求め、これまで、英和辞典出版関係者に改訂のための参考資料の提供や、説明の機会を持ってきた。しかし、最新出版された英和辞典でも、従来の説明の域を出ていないのは残念である。さらなる努力が必要と考える。

最近、日本では、読書、活字離れの傾向を止め、今日の人間の進歩発展を可能にした文字・活字の重要性を意識し、その振興のため、平成17(2005)年、「文字・活字文化振興法」(同年7月29日法律第91号)が施行された。この法案成立には読売新聞社が努力した。筆者は、この「文字・活字文化振興法」成立過程の参考例として、読書活動は日本語による日本国内の事例だけでなく、外国の例としてショトカー選定書読修会を取り上げるように、読売新聞社東京本社の関係者を度々訪問・要望した。平成16(2004)年8月に、筆者は記者とショトカー学園を訪問した。取材は、ショトカー選定書読修会卒業式と、その後の諸行事が中心であった。関係者の準備協力と支援で取材は無事完了した。帰国後、記者の報告は日本語版では読売新聞東京本社版、平成16(2004)年9月18日(土曜日)付け読売新聞朝刊で、英語版は、THE DAILY YOMIURIの2004年10月5日(火曜日)付で、それぞれ2分の1頁の記事が掲載された。日本の全国紙で、ショトカー選定書読修会がこれほど大きく紹介されたのは、読売新聞のこの記事が最初である。

今日の科学技術の発展は著しく、とくにメディア関係は、分進時歩と云われるくらいである。文字・非文字の伝達方法は、伝統的方法の紙と印刷から脱出し、書籍も急変している。これにより、文字自体の役割の重要性と必要性は認識されるが、その記録・保存・再生閲覧のユニバーサル化の視点から多くの問題や課題が生じるであろう。ショトカー選定書読修会はその持続活動において、かつて困難な状況に直面したが、近年、その活力を回復し持続中であるが、文字の伝達方法と書籍形態の急変進より選定書読修会もその対応が課題となるであろう。

しかし、不易なことは、読修者が選定書の読修を楽しみ、作者と読者、また読者相互の理解・感動の共有・深化の過程で得られる共存協力一体感である。日本では、文字・活字文化振興・持続のために法律で流れを作り、アメリカでは、文字・活字文化の持続のために、市民による市民のめの活動で流れの構築に努力している。これらの流れにより、グローバル文字・活字文化海流の誕生強化が望まれる。本来ならば、ショトカー選定書読修会活動を掘り下げた記述が求められるが、紙面の関係で概説的になった。これについて、それからまた、ショトカー活動の他の分野等に関しては、他の機会に詳述したい。

## 文献

The CLSC: *Chautauqua Literary and Scientific Circle Book List 1878-2011*, CLSC, 2010  
加澤恒雄「生涯学習の時代における学外の学習—学外での学修の視点—」『ペタゴジーからアンドラゴジーへ—

- 教育の社会的・実践的な研究—』大学教育出版、2004年に所収。
- 加澤恒雄「学校学習中心の時代から生涯学習の時代へ」『ベタゴジからアンドラゴジへ—教育の社会的・実践的な研究—』大学教育出版、2004年に所収。
- Kathleen Crocker and Jane Currie: *Image of America*. Chautauqua Institution 1874-1974, Arcadia Publishing, 2001
- 加澤恒雄「生涯学習の時代における大学の単位認定に関する諸問題」『大学論集』第30集、広島大学大学教育センター、2000年に所収。
- Jeffrey Simpson: *Chautauqua An American Utopia*, Harry N. Abrams, Inc. Publishers, 1999
- 久野吉光「アメリカの生涯学習・通信教育の原点ショトーカー総合学園」, 第44回日本通信教育学会研究協議会収録, 日本通信教育学会, 1998年
- 加澤恒雄訳ならびに解題「新しい教育方法としての生涯学習論」『広島工業大学研究紀要』1998年に所収。原著は *Christopher K. Knapper & Arthur J. Cropley, Lifelong Learning—An Emerging Approach to Education*, London & New York, Routledge, 1989
- 久野吉光「アメリカの生涯学習・原点・今日・明日・ショトーカー総合学園」, 社会教育第611号全日本社会教育連合会, 1997年
- 久野吉光「日本文学会の所在地の特定について」, 大阪春秋第77号, 大阪春秋社, 1995年
- 久野吉光「日本文学会について」, 大阪春秋第76号, 大阪春秋社, 1994年
- Yoshimitsu Hisano: *An Early Japanese Experiment in Distance Education*, International Council for Distance Education, volume 19, 1989
- Bruce Swanson: *An Early American Experiment in Distance Education*, International Council for Distance Education, volume 16, 1988
- Alfreda L. Irwin: *Three Taps of the Gravel: Pledge to the Future*, Chautauqua Story, Chautauqua Institution, 1987
- John H. Vincent: *The Chautauqua Movement*, 1886, Boston Press, 1886
- 新聞集成明治編年史編纂会：新聞集成明治編年史第6巻欧化政治, 林泉社, 1934年

